



竹林保全と竹を利用した交流活動による 若年世代への竹文化の継承

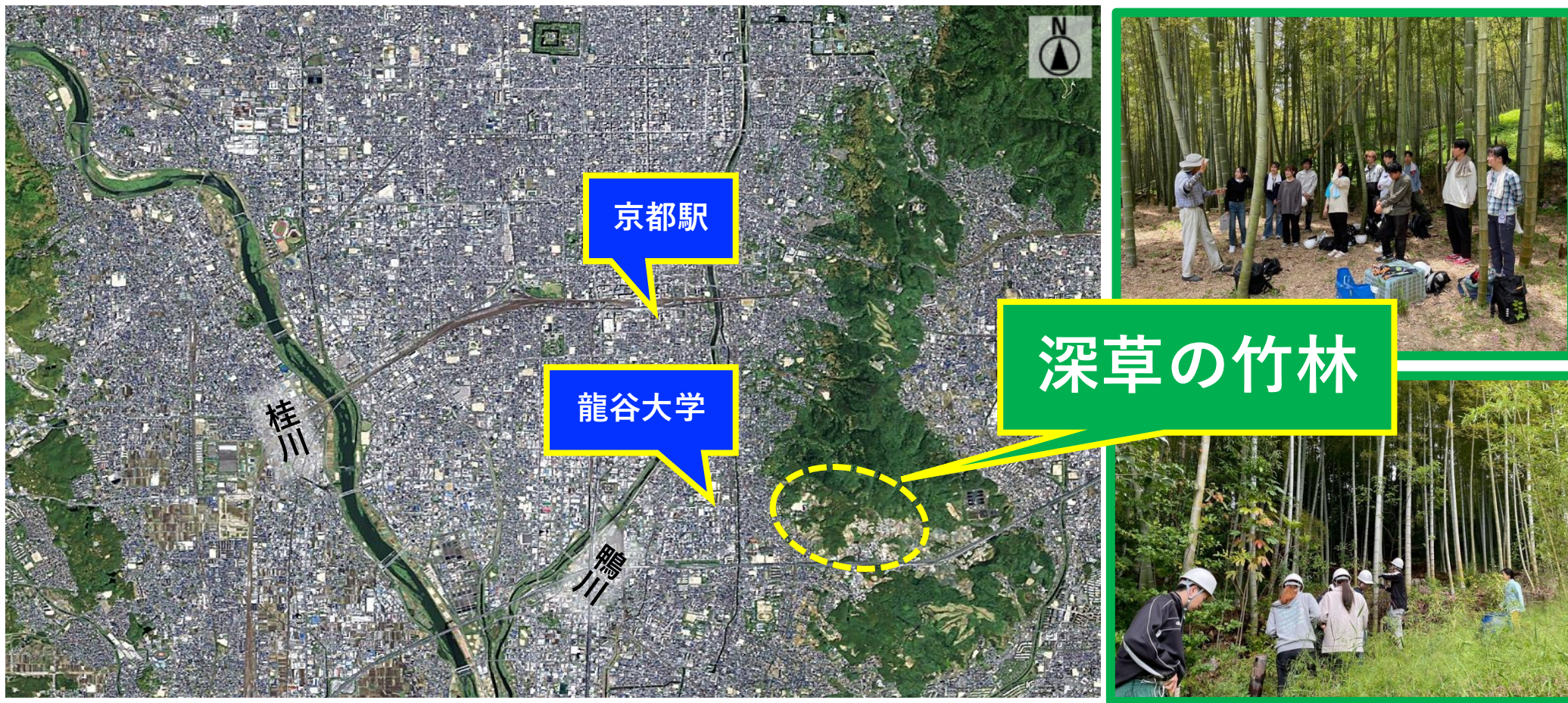


龍谷大学政策学部「地域課題発見演習」受講生（担当教員：清水万由子）・深草真竹を創生する会

1. 放置竹林問題の現状

京都市域全体には約 660 ヘクタールの竹林が存在する。龍谷大学が位置する京都市伏見区深草地域にも竹林がある。深草ではかつて個人農家による**タケノコ生産**が盛んだったが、輸入タケノコの普及や農家の高齢化と世代交代により、**モウソウチクの放置竹林**が増加している。放置竹林は、獣害増加、景観悪化、地盤の緩み、不法投棄の誘発など地域環境に様々な悪影響をもたらす。

京都市伏見区深草の竹林
出典：Google map



一方で、**マダケ**は伝統工芸品の材料等として国産材の需要が高まっている。そこで、地元農家を中心とする「深草真竹を創生する会」は、京都市南部農業振興センター等と連携して、モウソウチクを伐採し、マダケの移植試験を行っている。

モウソウチク



タケノコ
国産メンマ

マダケ



建材
工芸品

2. 放置竹林問題の原因

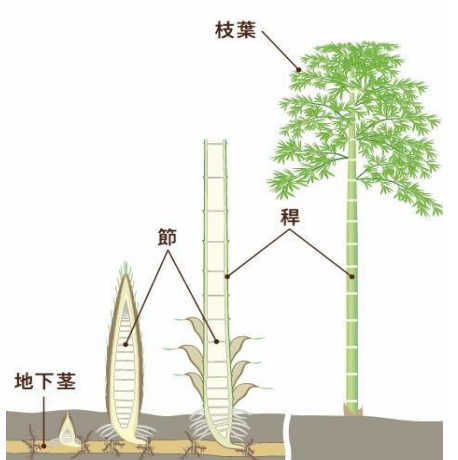
京都市南部農業振興センターや「深草真竹を創生する会」メンバーの方から講義を受け、また実際に竹の伐採作業を行い、放置竹林問題について学んだ。その原因は3つあると考えた。

(1) 竹林利用の変化

価格低下によるタケノコ生産の縮小、プラスチック製品の普及による竹材の日常利用の減少により、竹林は「利用される資源」から「**利用されない厄介者**」に変化した。

(2) 竹の特性

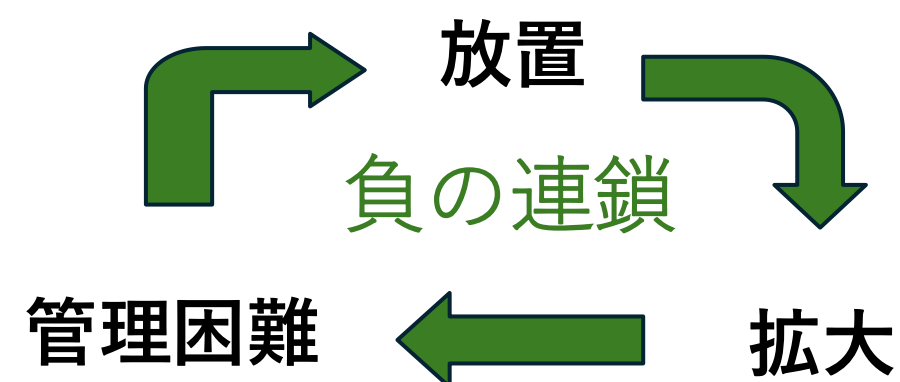
竹は**成長が早く**、数ヶ月で20mにもなることがある。伐採しても地下茎で広がるため、**竹林が拡大**していく。出典：農林水産省サイト



(3) 竹林整備の担い手不足

タケノコ栽培や竹の伐採は**機械化が難しく**、斜面作業のため作業負担が大きい。深草の農家はほとんどが**兼業による営農**で、若い世代が竹林管理を生活の中心にしていなかったため、整備の**担い手が不足**している。

これらの原因が負の連鎖となって、放置竹林が増加している。



出典：市民活動情報共有ポータルサイト（深草真竹を創生する会）

3. 課題解決と持続可能な暮らしに向けた実践：竹を活用した交流活動

本プロジェクトでは、深草の放置竹林問題解決に向けて、次の6つの取り組みテーマを考えた。

①竹の切り手の増加、②竹のプロを育成、③竹の活用を拡大、④竹の魅力を発信、⑤竹林管理の研究と行政、⑥タケノコ・幼竹の活用

このうち、深草の地域資源である「竹」に親しみのない若い世代に**④竹の魅力を発信**することで、**①竹の切り手の増加**、**③竹の活用拡大**につなげて、竹という**自然資源を生活に活用する持続可能な暮らし**に近づけていくことが可能になるのではないかと考えた。

【竹を楽しむイベント】

- ・タケノコを食べる
- ・竹箸・竹灯籠を作る
- ・大学生×高校生の交流

- 2025年10月11日（土）龍谷大学深草キャンパスにて「**龍谷政策FES 2025 竹箸づくり**」
- 2025年10月25日（土）龍谷大学町家キャンパスにて「**京都すばる高校×龍谷大学 秋の竹づくり**」京都府立京都すばる高校3年生5名と、竹筒ご飯作り、竹灯籠と竹箸制作、竹箸と竹食器で竹筒ご飯の試食、竹クイズや地域課題発見演習での取り組みの紹介



【参加者の変化】

- ・竹が「**資源**」だと気づく
- ・竹林と生活とのつながりを理解する
- ・竹を使う・選ぶという**選択肢を知る**

- 参加者からは、**竹への関心や理解が生まれた**という声が聞かれた。
「深草に竹林があるなんて知らなかった」「竹を削る作業に夢中になった」
「最初はまったく竹に興味がなかったけど、興味がわいた」
「竹について知ることができて、楽しかった」「気に入った竹灯籠ができた」



【持続可能な暮らしへ】

- ・竹の活用 → 放置竹林の解消
- ・若い世代への継承 → 竹林管理の担い手づくり
- ・地域資源を活かす暮らし → 環境・地域・人が循環

- 活動を授業で終わらせずに、大学生が①竹の切り手（ボランティア）となり、③竹の活用拡大と④竹の魅力発信を行うため、受講生15名で**龍谷大学サークル「竹っと」**を結成した。「竹と」一緒に活動する、「竹と」ともに生きる、「竹と」関わる人でありたい、という願いを込めた。
- 今後新しいメンバーを募りながら、**春に幼竹伐採とメンマ作り**、**夏に流しそうめんイベント**、**秋～冬にモウソウチクの伐採とマダケ移植作業**などを行っていく予定である。
- 竹林管理や竹の活用に先進的に取り組む団体との交流と学びの機会をつくり、自分たちも竹を楽しみながら、竹の魅力を伝え、竹に関わる人を増やす活動を続けていきたい。

龍谷大学「竹っと」ホームページ開設！
Instagramでも活動を発信中



DM(@bamboo.ryukoku) / メール（fukakusa.bamboo@gmail.com）